

事務事業名	就労者定住促進奨学金返還支援事業				担当	教育委員会 学校教育課 総務係		
政策名	3	「にぎわいづくり」～まちの活力アップ!～			<input type="checkbox"/> 総重 (総合計画重点事業) <input type="checkbox"/> 総新 (総合計画新規事業) <input type="checkbox"/> 戦拡 (総合戦略拡充事業) <input type="checkbox"/> 戦新 (総合戦略新規事業)	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 毎年度実施 (開始年度 平成28 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 年度～ 年度)		
施策名	20	雇用の安定と創業支援の推進						
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略				事業期間			
法令根拠	真岡市就労者定住促進奨学金返還支援事業補助金交付要綱							
予算科目	1. 一般会計	10. 教育費	1教育総務費	2事務局費				
事業概要	人口増加及び定住促進施策の一環として、無利子の奨学金を受けて大学、短期大学、高等専門学校及び大学院に進学した者が、卒業後に真岡市内に居住し、就労した場合、返還された奨学金の一部を補助することで、真岡市への定住を促進させる。 <b>【補助金額】</b> 前年度中に返還した奨学金(補助対象金額)に相当する額 ただし、一人に対する補助金の総額は最大200万円を限度とする。 ・令和元年度末、市内就労要件を外し対象者を拡充するため、要綱を改正をした。 ・令和3年4月から、対象者を拡充するため、4年生以上の大学生に加え、短期大学生、高等専門学校生、大学院生を追加した。これに伴い、貸与期間は2年以上とし、返還期間を5年以上に改正した。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段(主な活動) 2年度実績 市ホームページ、ウィークリーニュースもおか、広報もおかへの掲載、郡内各高等学校、その他県内・近県各高等学校や真岡工業団地総合管理協会へ案内を配布し、制度の周知及び募集を行った。  3年度計画 前年度と同様	④活動指標(事務事業の活動量を表す指標)の推移							
	名称		単位	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(見込)
	ア	交付者	人	2	4	7	18	28
	イ	交付金額	千円	420	688	1353	3066	5060
	ウ	周知回数	回	3	3	3	6	6
	エ							
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 公的な奨学金を借りている人(市奨学金を借りている人)	⑤対象指標(対象の大きさを表す指標)の推移							
	名称		単位	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(見込)
	ア	市奨学金を借りている人	人	31	26	16	16	8
	イ							
	ウ							
	エ							
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 奨学金を貸与した学生に対し、真岡市内に定住する機会を高めることができる。	⑥成果指標(対象における意図された対象の程度)の推移							
	名称		単位	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(見込)
	ア	制度を利用し定住した人	人	2	4	7	18	28
	イ							
	ウ							
	エ							

(2) 総事業費の推移		単位	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(実績)	2 年度(実績)	3 年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	420	688	1,353	3,908	5,060
事業費計(A)		千円	420	688	1,353	3,908	5,060	

2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地はない <input type="checkbox"/> 見直し余地がある (評価理由) 人口減少傾向にあつて卒業学生の定住を促進させる。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地はない <input type="checkbox"/> 見直し余地がある (評価理由) 卒業学生への定住促進に要する投資として妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	<input type="checkbox"/> 対象・意図を見直す必要はない <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある (評価理由) 公的な奨学金を借りた人の定住促進が図られる。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある (評価理由) 制度見直しを行ったので、周知により定住促進を進める。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統廃合や連携はできないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業と統廃合・連携ができる(類似の事務事業名： ) <input type="checkbox"/> 類似事業と統廃合・連携できない(類似の事務事業名： ) <input type="checkbox"/> 類似事業はない (評価理由)
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある (評価理由) 削減することは定住促進の事業効果を低下させる。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し( <input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性 ) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 課題、課題の克服の方向性 令和3年4月から、対象者を拡充するため、4年生以上の大学生に加え、短期大学生、高等専門学校生、大学院生を追加し、貸与期間は2年以上とし、返還期間を5年以上に改正した。 これにより、より一層、市内への定住促進を図りたい。																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							